

第三者評価結果

A4	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a
----	---	---

## 【判断基準】

- a) 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。
- b) 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っているが、十分ではない。
- c) 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っていない。
- ア 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。
  - イ 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。
  - ウ 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。
  - エ 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。
  - オ 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。

## &lt;コメント&gt;

年間保健計画に子どもの健康教育を掲げ、発育状況や健康状態を把握し、健康に過ごすための手洗い、うがい、歯磨き、早寝、早起きなど基本的な生活習慣や衛生習慣を身につけることができるように支援しています。年齢に合わせた環境整備や体調に留意し、自分でやろうとする気持ちを尊重し、見守りや言葉かけを行い、タイミングを見て必要な援助を行っています。子どもの体調や活動により、休憩時間を取り入れたり、午睡時間を調節するなどの配慮を行っています。1日の生活を見通して過ごせるように、絵カードやホワイトボード、絵本、ポスターを使って視覚からも働きかけ、自分で考えて行動できる力を伸ばすように取り組んでいます。室内遊びと外遊びなど、遊びの時間を区切り、年齢ごとに休憩時間を設けることで活動と休息のバランスに配慮しています。

第三者評価結果

A5	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b
----	---	---

## 【判断基準】

- a) 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。
- b) 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開しているが、十分ではない。
- c) 子どもが主体的に活動できる環境の整備や、子どもの生活と遊びを豊かにする保育が展開されていない。
- ア 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。
  - イ 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。
  - ウ 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。
  - エ 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。
  - オ 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。
  - カ 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。
  - キ 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。

- ク 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。
- ケ 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。
- コ 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。

<コメント>

子どもが主体的に活動できる環境を整えています。子どもの年齢や発達に合わせ保育室内の物の配置や環境を見直し、絵本や玩具、教材など、好きな遊びを選べるようにしています。保育活動では、子どものやりたいという声や思いを受け止め、話し合いで考えたことを活動に取り入れ、音楽に合わせて踊ったり、追いかけてっこをしたりなど身体を動かす機会を作っています。園庭には多くの遊具が設置されています。園庭の菜園で花や野菜を育て、水やり当番や収穫体験をしています。外遊びを多く取り入れ、公園まで散歩して地域の人と出会い挨拶を交わしたり、交通ルールを学んでいます。グループの当番活動や集団遊び、行事などを通して友だちとの関わりが育つように働きかけをしています。個人の道具箱や自由画帳を使い、絵を描いたり様々な活動が自由にできるようにしていますが、ダンボール制作や楽器、体操教室 表現活動などが自由に体験できているとは言えず、課題と考えています。

第三者評価結果

A6	A-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
----	---	---

【判断基準】

- a) 適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。
- b) 適切な環境を整備し、保育内容や方法に配慮しているが、十分ではない。
- c) 適切な環境、保育の内容や方法に配慮されていない。
  - ア 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。
  - イ 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。
  - ウ 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。
  - エ 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。
  - オ 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。
  - カ 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。

<コメント>

0歳児は発達過程において成長の幅が大きく、個々の発達状況や特徴を把握し、保護者と連携を密にして対応しています。担当制にはしていませんが、なるべく子どもが落ち着いて過ごせる保育士が付くようにしています。落ち着いた雰囲気の中で子どもの表情や様子から、子どもの欲求を受け止め、抱っこやスキンシップを図り、穏やかに語りかけて応答的な関わりを大切に育んでいます。月齢や個人差、その日の子どもの状況に合わせて保育できるように場所や活動内容を分け、安心して過ごせるようにしています。発達に合わせた手作り玩具や、保育士の膝に抱かれて、歌や手遊びなどふれあい遊びを多く取り入れています。子どもの様子はクラス会議、乳児会議、職員会議等で全員に周知しています。0歳児クラスは看護師が配置されています。保護者とコミュニケーションを持ち、子どもや保護者の様子を把握し、アドバイスや相談に応じるようにしています。

第三者評価結果

A7	A-1-(2)-⑥ 1歳以上3歳未満児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
----	--	---

【判断基準】

- a) 適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。
- b) 適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しているが、十分ではない。
- c) 適切な環境、保育の内容や方法に配慮されていない。
  - ア 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。
  - イ 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。
  - ウ 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。
  - エ 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。
  - オ 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。
  - カ 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。
  - キ 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。

<コメント>

クラス会議やミーティングで一人ひとりの子どもの発達や様子を話し合い職員間で共有し、その子どもに合った働きかけや援助、対応をしています。保育室や園庭、ホール、プレイルームなどは、安全面に配慮し子どもが思い切り体を動かしたり、絵本コーナーや机上遊びなど好きな遊びができるようにしています。コーナー遊びの充実やパーテーションを利用して活動を分けることで、子どもが進んで遊びを楽しむようにしています。遊びの中でトラブルになったときは、子どもの気持ちに寄り添い、話をよく聞いたうえで、お互いの気持ちを代弁し気持ちが伝わるように仲立ちをしています。幼児クラスとは、園庭遊びの際自然な関わりで一緒に遊ぶ機会を持ったり、活動を見えています。保護者とは登降園時の会話や連絡帳で情報確認しています。

第三者評価結果

A8

A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

【判断基準】

- a) 適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。
- b) 適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しているが、十分ではない。
- c) 適切な環境、保育の内容や方法に配慮されていない。
  - ア 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。
  - イ 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。
  - ウ 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。
  - エ 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。

<コメント>

年間指導計画を基に毎月の指導計画を作成し、一週間ごとに保育に関する自己評価を行い、子どもの姿に合った保育の実践につなげています。3歳児クラスは、集団活動の中で様々な遊びを選んで経験し、楽しく過ごすことや、うまく関われなかった場合、保育士が気持ちを引き出しながら、相手の気持ちを理解できるようにしています。4歳児は、個々の得意なことが発揮できる場を作り、苦手なことも保育士や友だちと一緒に取り組み、個の力を集団に繋げられるようにしています。5歳児は、子ども自身で考えて取り組むことや協同活動を大切にしています。遊びの中で自由に得意なことを伸ばしていけるよう、場所や素材を整えています。子ども同士の関わりが主になり、保育士は見守りながら必要ところで援助しています。おたより、懇談会で子どもの育ちや活動の過程などを伝えています。

第三者評価結果

A9

A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

b

## 【判断基準】

- a) 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。
- b) 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育内容や方法に配慮しているが、十分ではない。
- c) 障害のある子どもが安心して生活できる環境の整備、保育の内容や方法に配慮していない。
- ア 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。
  - イ 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。
  - ウ 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。
  - エ 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。
  - オ 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。
  - カ 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。
  - キ 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要は知識や情報を得ている。
  - ク 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。

## &lt;コメント&gt;

保育室内はバリアフリーになっていますが、エレベーター設備がない2階建です。障害のある子どもの特性については保護者と情報の共有・連携を図り、個別支援計画を作成し、クラスの計画と関連付けしています。支援を必要とする子どもについて職員間で話し合い、グループ活動やクラスでの活動を共にできるように配慮しています。必要に応じて地域療育センターの巡回相談や就学相談、病院等の関係機関などに助言を受け、反映させています。子どもたちには、障害を個性として伝えるような関わり方を心がけています。職員は障害に関する研修を受講して知識の習得と専門性の向上を図っています。園舎全体がバリアフリー化されていないため、環境整備が望まれます。保護者へは、障害のある子どもの保育に関して適切な情報を伝えるための取組が行われていません。

第三者評価結果

A10

A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

## 【判断基準】

- a) それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。
- b) それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しているが、十分ではない。
- c) それぞれの子どもの在園時間を考慮した保育環境の整備、保育の内容や方法に配慮していない。
- ア 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。
  - イ 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。
  - ウ 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。
  - エ 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。
  - オ 子どもの在園時間や生活リズムに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。
  - カ 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。
  - キ 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。